

# 令和7年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural  
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子  
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	C	B	法人研修や園内研修の際に、法人の保育理念や改訂された区の保育の質ガイドラインについて勉強することで、子どもの人権をより意識して保育できるようになった。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている	B	A	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	A	A	ミーティング以外でも、雑談等で子どもたちの様子や遊びについて話し、情報を共有できた。園全体で子どもたちの事を見守る意識が高まっている。 保育室内の整理整頓が不十分で、適切に使えていない、しまわれない物がある。整理整頓は今後も課題である。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	A	A	
	(3)素材・用具を適切に使用している	C	C	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	A	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	楽しい食事になるよう、毎月の会議で子どもたちの様子を保育士と栄養士で共有していった。また、食に対する興味を引き出せるよう、クッキング以外の食育(旬のものを知る・触る、野菜の下処理等)も取り入れていった。以前に比べると減ってはいるのだが、もっと残食を減らしたい。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員研修構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	個々に必要な物、園として必要な物を考え研修を行っていった。今後でもできる限り園外での研修にも参加できるようにしていきたい。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	A	

保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	B	個人面談や送迎の際に、できるだけ子どもたちの様子を伝えるよう一人ひとりが心がけていった。ドキュメンテーション等も日々発信し、子どもたちの様子を保護者と共有し、時には保護者も巻き込みながら、共に楽しんでもらおうと心がけていった。今後は、子どもたちの成長もドキュメンテーション等で伝えられるようにしていきたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	B	
	(4)園日より、ドキュメンテーション、きっぷノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	A	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	B	近隣園と連携をとり小学校へ訪問することはできた。小学生との交流は1回であったが、近隣園との交流は定期的に行う事ができたので、今後も続けていきたい。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	A	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	C	見学者の受け入れを行い、子育てや園生活についての相談については都度答えていった。今後は、もっと地域の親子の交流の場になれるようにしていきたい。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	B	B	

## 総合的な現状と課題

<p>園の子どもたちのことを、担任に関わらず皆で見守る意識が全体的に高まり、子どもの興味・関心を大切にすることができた。また、今年度は世田谷区の保育の質ガイドラインが改正されたため、子どもの人権について考える時間も多かったように思う。今後も、子どもの主体性と人権を意識しながら保育していきたい。そして、子どもたちの「やってみたい」や「楽しい」を保護者の方と共有出来るように発信の方法を考えていきたい。</p> <p>今後の課題として、小学校や商店街だけでなく地域とのつながりを強くして、地域で子育てをしている親子との交流も出来るようにしていきたい。</p>
--

園名 ひなたの森保育園

氏名 廣澤麻美